

2023 年度支部活動【関東支部】

再考 多文化共生の「コーディネーター」開催報告

主催：公益社団法人日本語教育学会

開催日：2023年8月20日(日) 会場：オンライン（Zoom）

参加者：44名

関東支部では8月20日（日）にオンライン（Zoom）で支部活動を行いました。支部活動は第1部と第2部で構成し、第1部は講演と対談、第2部は参加者同士の意見交換の場を設けました。

第1部では、NPO法人CINGA コーディネーターの新居みどり氏をお迎えし、「再考 多文化共生の「コーディネーター」－17年間のコーディネーター人生から語る－」というタイトルでご講演いただきました。NPO法人CINGAが取り組んでいる事業の紹介とともに、新居氏自身のコーディネーター人生をもとに多文化共生の「コーディネーター」の役割、必要な資質・態度・能力についてお話いただきました。地域ごとに異なる問題を整理し解決するための市民参加・相互学習の仕組みづくり、対話をベースにした多様な人・機関・団体との協働活動の推進やネットワークづくりといった観点から整理され、地域日本語教育および多文化社会におけるコーディネーターの役割と位置づけが明確になりました。新居氏をファシリテーターとした対談では、当事者として外国人支援に携わっているサツキヤマナ氏、宇塚レオン氏、佐藤美幸氏がそれぞれの歩んできた道、外国人支援を通して考えていることなどをお話いただきました。「専門家が気づかないところまで気づくことができる」「相談だけじゃなく悩みを聞きとって専門家に聞きながら進めている」といった母語を介する支援の強みと専門家との協働の実態について知ることができました。また、新居氏から対談者への「会議の時、日本語母語話者や日本語が上手な人が主導権・発言権を握ってしまう傾向があることをどう思うか」という問いに対して、「〇〇さん、のように名前を呼んで会話の間(ま)を作ってほしい」「あなたはどう思いますか、といった問いかけをしてほしい」といった意見があり、対話の重要性を感じました。

第2部では、約20分間の意見交換の場を2回設けました。1回目はランダムに分けたグループでのブレイクアウトルームにて、第1部の感想の共有を行いました。2回目は複数のテーマを設定し、参加者が関心のあるテーマを選んで自由にルームに移動できるようにしました。テーマは「地域の日本語教育」、「年少者支援」のほか、対談者3名それぞれのルームを設定しました。日頃の活動の情報交換、第1部で聞き足りなかったことを対談者に直接聞ける場となりました。

事後アンケートには多くのコメントが寄せられました。第1部には「新居さんの熱量を感じた」「対談で当事者の視点からの声が聞けて良かった」といったご意見のほか、現在何らかの形で地域にかかわっている方々から「包摂的な社会認識の視点に立って業務に向き合いたい」「地域の彩にあった私の役割を考えていきたい」といった今後につながる前向きなご意見をいただきました。第2部の意見交換については「時間が足りなかった」というご意見があり、地域における日本語教育・支援のあり方について情報共有の機会を望む声が多数見られました。皆様から寄せられたご意見を受けて、今後の運営方法を見直すと同時に、より実りの多い企画を考案していければと思います。

支部活動にご参加くださった皆様、ご協力くださった関係者の皆様に心よりお礼申し上げます。

（報告者 支部活動委員：井上里鶴，國澤里美，神山英子，草木美智子
運営協力員：世良時子，田川恭識）